

湘南学園だより

No.116

発行 園部
学 園
南 だ
湘 集
学 編

創立80周年に向かつて今問われていること

学園長 仲本正夫



高校3年生のみなさん、いよいよ明日は卒業式ですね。今、ひとつのことが終わります。6年間を振り返ると感慨深いものがあると思います。そして、すぐに次の新たな高みに向かつての挑戦がはじまりますが、湘南学園で培った幅広い力を存分に発揮されて未来を切りひらいていかれることを心から期待しております。

今、創立80周年記念事業として、2階建ての「80周年記念館」の建設をすすめることにしています。卒業して同窓会をひらくときには、1階の200席を用意したカフェテリアが自由に利用できるようになりますので、大いに活用して、友情を育ててほしいと思います。

「湘南学園があつたから今の私があるので、できる限りの応援をしましょう」・・・二月中旬、今から六〇年も前に湘南学園中学校を卒業した大先輩を訪ねた時のことばである。今は、ある大企業の会長とされている方であるが、湘南学園創立80周年事業への大口の寄付をお願いするために、ドキドキしながらお部屋を訪ねたときのことであつた。もちろん見ず知らずの私などいくら面会をお願いしても、門前払いが関の山であるが、その段取りや道案内は、実行委員会の同窓会の友人の方にすべてやっていた。今、創立80周年の3つの事業を成功させる取り組みがどのように湘南学園始まって以来のスケールで始まるうとしている。

私にとって卒業後、六〇年もたった母校に対して、こういうお気持ちをお持ちだつた大先輩に出会えたことはじつに幸せなことであり、深い感動につつまれた。それは、湘南学園の六〇年前の教育がかけが

えない宝物となつて結実した瞬間でもある。

湘南学園は、同窓会、PTA、後援会とともにチーム湘南学園として、昨年、一昨年と2回にわたつて講演会をひらいた。一昨年は森ビル社長の森稔氏、昨年は元NHKのディレクターの鈴木健次氏をお招きしたが、お二人とも、特に次代を担う生徒たちに話をされたいとすずんでお引き受けいただき、準備に苦心されながらも心をこめたお話をして下さいました。

私が驚いたのは、お二人とも公立学校で不登校となり、湘南学園中学校に入されたということであつた。つまり、お二人とも、初めから明るい成績優秀な生徒ではなかつたということである。一般的に成績が悪かつたり、学校になじめないこともだが、じつは、湘南学園ではそういうこともたちをおおらかに育て、大切にしていたということであらう。そういう時代をくぐつたこともたちが、その後、その経験をバネにしなから、大きく社会にははたき活躍され、社会貢献をされているということを見るとき、学校が果たす役割の根源の問題に突き当たる。それは、どんなこともちも人間的に大切にするということである。こともとの信頼関係もそのことと抜きにはつけれない。

森稔氏の講演にさいしては、私は、中学校開校二期生の森氏がどんな学校生活を送つておられたのかを知りたくて、当時の文集や新聞などで森氏の足跡を探して見た。その中で、宮下正美園長が巻頭言

をかいている「まつぼっくり創刊号」(1949年)に出会い、その中に中三の森稔氏の「鬼の子」という小説が中学生の代表作品として掲載されていることを発見することができた。宮下園長によつて、森氏の文学的な才能が発見されたということもよいだろう。このような教育における子どもの才能の発見ということ、子どもの自信や生きる希望の獲得と深くかかわることである。それは、その後、森氏が大進学にあたつても文学をやつてみたいという重要な動機を形成するものともなつていったのではないだろうか。

「教育の成果は「目ではわからない」とはよく耳にすることばであるが、いったい私たちの現在の教育実践のありようは、六〇年後にさりげなく「今の私があるのは、湘南学園があつたからだ」ということばをきくことのできる教育になつているのだろうか。今、私自身、深く問い直していきたい。

創立80周年を迎えるにあつて、小学校改築、80周年記念館建設、教育振興基金の創設という三つの記念事業を実現するための募金をこれから学園関係者にお願ひする準備をすすめているが、要するに募金を取り組むにあつては、湘南学園の教育が改めてきびしく問われるということを再認識して、全ての教師が教育の根幹に、どうしりと人間を大切にすることを教育というものをすえていかなければならないということになるのではないだろうか。

創立80周年に向かって

創立80周年記念事業実行委員会

〔行事委員会〕

―80周年にふさわしい行事企画の 検討を進めています―

2013年の創立80周年へ向けて実行委員会は、月一回のペースで会議を開きながら、4分野の委員会において記念事業の具体化に向けて協議を活発に進めています。その中でも柱となる事業計画は次の二つです。

I. 小学校新校舎建築
記念事業の大きな柱としての小学校建築は、今年8月に全面完成します。詳しくは学園便り今号の特集をお読みください。

II. 80周年記念事業としてのカフェテリア（80周年記念館）建設に向けての取り組みが、いよいよ軌道に乗り始めました。学園便り今号では、先般実施したアンケート調査の結果をお伝えしています。

各委員会の活動報告

②

2013年秋に実施するPTAバザーは、地域の人たちにも呼びかけ「市民の祭り」のカラーを打ち出したものにしたと話し合われています。カフェテリアの建設とも関係

①

2013年の創立記念日の前後に、複数の文化行事の開催について検討しています。

かつて存在した「芸術コース」のOBや、学園に縁のある芸術家による「記念音楽会」また在校生、PTAなどが参加する文化行事について検討を進めています。園児、児童、生徒も参加した学園にふさわしい文化行事を目指しています。

③

園児、児童、生徒を対象とした図画、作文などのコンクールも検討されています。80周年にふさわしいコンセプトに沿って募集する予定です。

④

同窓会、後援会とも協力し、2013年度に「ホームカミング 데이」を実施するなどの検討も進めています。

保護者の皆様のご意見、ご要望もぜひお寄せ下さい。

〔記念誌委員会〕

―親しみやすく、 元気の出る記念誌を―

湘南学園は10年ごとにその歩みを「記念誌」として発行していま

す。「80周年誌」の発行について、以下のような編集方針が決まっています。

広く読んでいただける親しみやすい内容、「元気や意欲の出る」記念にしたいと話し合っています。前回の記念誌と同様に記念誌とともにDVDの制作も決めています。子ども達の輝きを動画で収録してほしいという強い希望が寄せられています。

委員会では、私学をめぐる厳しい情勢や深まる募集危機を受け、「湘南学園教育の価値」、独自性と魅力を改めて確認し、今後の課題を考える機会にもしたいと考えています。各学校の現在の教育実践を紹介しながら、学園全体を貫いて意識化すべき課題は何かという観点で教育研究者のコメントも頂き、解明していきたいと願っています。

今回も学園生と教職員の全員写真、小学校新校舎、園児、児童、生徒が学び生活する写真を入れます。「チーム湘南学園」の結果を前面に出し、理事長・学園長・PTA会長、同窓会長、後援会長などみなさんに寄稿していただく予定です。

主な内容として「各学校の特色ある教育実践」「PTA活動の新

たな展開」「近年の歩み」募集・震災・全学の連携」「将来像を語る座談会」「在校生の声」「卒業生やOB教員のメッセージ」「データ」資料編(年表)」等を一冊にまとめる予定です。

DVDには、園児・児童・生徒の豊かな学びや生き生きとした活動を収録し、学校の立地や歩みをたどる内容を構想中です。

記念誌、DVDともに三千部の発行を予定しています。

【事業委員会】

「学園生活をさらに楽しく豊かにし交流と辞を深める」「80周年記念館」の建設に向けて

「80周年記念館」は現在松が岡邸やプレハブ教室のある1260㎡の校地に、2階建てで、一階には、生徒・保護者からも大きな期待が寄せられている約200席(1学年が入れるスペース)のカフェテリア、2階には「資料室・同窓会室等」を約1億円で建設する予定です。現在、実行委員会では理事会とも協議しながら、基本コンセプトを検討しています。特に「階のカフェテリアのコンセプトについては、事業委員会でも食育

の必要性が熱く語られ、食育を湘南学園の新しい魅力にして募集にも役立つものにしたという声が多く出されました。現在、カフェテリアのコンセプトとして、アンケート結果も参考にしながら、「食育重視の食事提供、ゆとりの空間、多目的利用の場」として検討中です。

1階にカフェテリア・厨房・購買や自販機コーナー、2階に資料室・同窓会室等が置かれる予定です。

カフェテリアの利用方法、出食内容、運営方法の詳細、また資料室の利用方法、管理運営については、今後、引き続き検討を続けていきます。

理事会と事業委員会は、今後合同で第一段階として設計業者から80周年のラフスケッチを募集し、そのプレゼンテーションを受けて、基本構想を固め、建設業者を選定していくことにしています。

【募金委員会】

幅広いご支援を受ける

ための様々な努力を開始

「創立80周年記念募金」には、2つの柱があります。第一の柱

は、小学校改築工事および80周年記念館(カフェテリア等)建設工事に向けた募金です。第二の柱は、「教育振興基金の創設」の募金です。

第一の柱の募金目標は、「80周年記念館」の建設費用として予定されている約1億円の半額、5千万円を目標としています。

第二の柱である「教育振興基金」は、当初「育英制度創設募金」として検討を始めたのが、同窓会等での検討を受けて、湘南学園の教育をより幅広く支援する方向の基金としていきたいということになりました。そうした経緯を経て「教育振興基金」へとコンセプトを変更しています。例えば近年新たに派遣先が広がっている海外研修への参加支援など在校生や教員への援助も切実になっています。そうした事も想定した内容へと、基金の目的を拡充しています。

募金は個人寄付を一口5000円として、幅広く募りたいと考えています。また法人寄付、団体寄付も募ります。

その他に著名な学園OBの方々へ特別寄付として大口の寄付をお願いできたらと考えています。現在学園長と同窓会幹部の方々の中

心に推進プロジェクトが生まれ、活動が推進されています。現在募金活動全体のコンセプトをまとめた「募金趣意書」を作成中です。



創立八十周年記念事業

カフェテリア建設についてのアンケート調査結果

80周年記念事業実行委員会



中学生の八十五%、保護者(幼小中高)の八十八%が賛成

創立80周年記念事業実行委員会は十二月カフェテリア建設についてのアンケート調査を実施しました。

それによりますと中学生では「大賛成」が七十一%「賛成」が十四パーセントで合計八十一%が賛成しています。

高校生では、高二では実際利用できる期間が少ないことから、「賛成」は四十九%と大幅に低下しています。

保護者(幼小中高)では「大賛成」が七十一%「賛成」が十四%で合計八十五%が賛成しています。

次に、「食の安心、安全」については、「関心を非常に持っている」と「多少は持っている」を合わせると、中学生六十八%、保護者九十六%、教職員九十%と非常に高い関心があることがわかりました。

さらに「食べたいメニュー」としては中学生の場合(複数回答)一位が「ラーメン」六十二%、二位が「パスタ類」五十%だったのに対して、保護者の一位は「定食」

六十二%、二位は「パスタ類」十三%であり、教職員も一位は定食の六十一%でした。食べたいメニューが、生徒と保護者・教職員では、はっきり違う傾向があることが明らかになりました。

「カフェテリアアンケート」教職員の自由記述の紹介

△中高教職員のご意見▽

何人かの方のご意見を紹介させていただきます。

- ・是非とも実現して欲しい。地元食材で作ったメニューに力を入れて生徒達に食べさせることの意義は多様なものがある。
- ・昼休み中は大混雑することが予想されますので、可能な限り最大の収容人数が確保できるようにご計画くださいと思います。
- ・カフェテリアのある学校とない学校では受験生や保護者の受止め方が全然違うと思います。ぼくは高二の時に学校に食堂が出

来、それ以前の学校生活とそれ以後の学校生活は大きく変わり、学校にいる時間が長くなりました。

・母校には大きめの食堂がありました。先生と一緒に食事をとることができ、今思えば良い時間を過ごせていました。放課後等も利用が出来れば、寄り道せずとも友人達との楽しい時間を過ごすことが出来るのではないのでしょうか。大人から見ると他愛のない時間のようでも、中学生にとっては宝物のような時間です。すからな。

・カフェテリア大賛成です！学園長からの報告にあった「食」の問題は深刻で、子ども達の健やかな成長に責任を持つわたしたちが取り組むべき課題だと思えます。

・新しく建設するならば「ホンモノ」にこだわって欲しい。地域性や社会性に照らし合わせ、まがい物でない商品の提供に努めて欲しい。また生徒のいない時間は一般に開放することも検討して欲しい。

・理想としては、「地産池消」「食育」など大変素晴らしいですが、現実を考えるとランニングコスト的にかなり厳しいのではない

でしょうか？大学とは規模が違います。親や子ども達もアンケート段階では、栄養バランスや、地元の食材、などと答えるかも知れませんが、今は牛丼一杯二百四十円で食べる時代です。たとえ親が毎日のカフェテリア代として相応の金額を渡したとしても、実際には安いものを購入したり、パンで我慢してお小遣いにするという生徒も多くでるでしょう。

・建物は寄付によって建ったとしても、その後のランニングコストが大丈夫？と思ってしまう。ただでさえ財源がないと言っている現状、無理はしてほしくない。

△小学校教職員のご意見▽

・小学校保護者の中では、お弁当を学校で手配して欲しいという要望は、以前から強くありました。募金面でも、給食がないことで敬遠されているという話があり、カフェテリアで小学生向けのお弁当を扱うことが、大きくプラス材料として作用することが期待できます。

・地元の食材を使ったメニューがあることで、小学校の総合学習

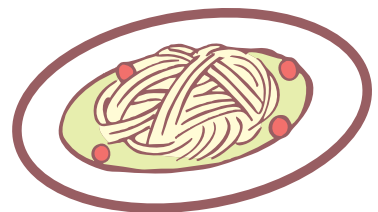
カフェテリア アンケート結果 中1 ~ 中3

学 年		中1	中2	中3	合計	割合
生徒数		191	185	184	560	
回収数		181	176	175	532	
回収率		94.8%	95.1%	95.1%	95.0%	
1. カフェテリアが できること	ア 大賛成	132	121	122	375	70.5%
	イ 賛成	28	29	18	75	14.1%
	ウ どちらでもよい	18	21	21	60	11.3%
	エ 反対	2	3	4	9	1.7%
	オ その他	1	2	10	13	2.4%
2. 夕食 家族と一緒に	ア とっている	126	114	113	353	66.4%
	イ 時々	39	47	49	135	25.4%
	ウ 1人でとることが多い	4	14	13	31	5.8%
	エ その他	4	1	0	5	0.9%
3. 朝食 家できちんと とっているか	ア とっている	153	145	125	423	79.5%
	イ 時々とっている	18	22	38	78	14.7%
	ウ ほとんどとらない	9	9	10	28	5.3%
	エ その他	1	0	2	3	0.6%
4. 昼 食	ア 毎日弁当	134	114	140	388	72.9%
	イ 時々弁当あとは	41	53	28	122	22.9%
	ウ ほぼ売店コンビニ	6	7	6	19	3.6%
	エ その他	0	2	1	3	0.6%
5. 利用の仕方	ア 週4~6回	34	16	29	79	14.8%
	イ 週3回	36	35	43	114	21.4%
	ウ 週1~2回	97	109	91	297	55.8%
	エ 利用しない	11	9	9	29	5.5%
	オ その他	3	7	3	13	2.4%
6. 広さ	ア 3教室分	25	25	24	74	13.9%
	イ 5教室(1学年分)	52	57	48	157	29.5%
	ウ 8教室(300人分)以上	59	67	85	211	39.7%
	エ わからない	24	23	17	64	12.0%
	オ その他	1	4	1	6	1.1%
7. カフェテリアできたら 昼食の時間は楽しく なるか?	ア 非常になる	92	80	100	272	51.1%
	イ かなりなる	64	55	47	166	31.2%
	ウ あまり今と変わらない	14	23	14	51	9.6%
	エ わからない	9	17	13	39	7.3%
	オ その他	0	1	1	2	0.4%
8. 息抜きの空間になる か?	ア 非常になる	82	84	96	262	49.2%
	イ かなりなる	69	51	47	167	31.4%
	ウ あまり今と変わらない	15	16	15	46	8.6%
	エ わからない	11	19	17	47	8.8%
	オ その他	2	6	0	8	1.5%
9. 食べたいメニュー	ア ラーメン	105	112	110	327	61.5%
	イ そば類	61	60	67	188	35.3%
	ウ パスタ類	99	99	86	284	53.4%
	エ 定食	82	66	67	215	40.4%
	オ どんぶり物	36	70	54	160	30.1%
	カ 利用しない	2	7	7	16	3.0%
11. 海産物・農産物畜産物 を使ってほしいか	キ その他	11	0	0	11	2.1%
	ア できるだけ使ってほしい	56	48	46	150	28.2%
	イ 時々使ってほしい	72	59	59	190	35.7%
	ウ あまりこだわらない	46	46	58	150	28.2%
	エ わからない	6	11	9	26	4.9%
12. 食品添加物・放射能等 安心・安全	オ その他	1	12	3	16	3.0%
	ア 非常にある	44	48	52	144	27.1%
	イ ややある	74	74	69	217	40.8%
	ウ あまりない	61	51	52	164	30.8%
エ その他	2	3	2	7	1.3%	

や食育との関わりが持てることを期待します。
建設予定の場所を考えると、小中学校にとっては、日常の活動の中での利用は、そもそも移動という点からも難しいと思います。中学生にとっての心地よい空間になればと思います。総合や教科学習との関わりでいうと、業者選定等難しい部分が多いと思います。

す。食育・地産地消・社会科の食料生産などのつながりが持てるなら面白くなると思います。
小学生に向けて希望者に弁当給食を実施してほしい。食の安全を大切にし、また地域の食材を活用した栄養バランスのよい、あたたかくおいしいメニューを提供して欲しい。栄養士さん、調理師さんに食育のゲストティチャーとして授業参加を。

★たくさんのご意見をいただきました。ご紹介したのはそのうちの一部分のご意見です。尚内容は一部割愛しています。ご了承ください。



小学校全施設完成に向かって

現在の進捗状況

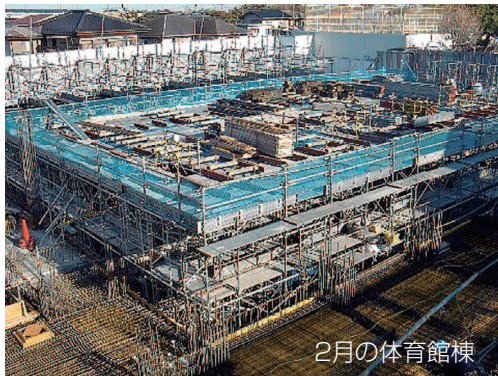
昨年三月、東北大震災の後、小学校メディアセンター及び教室棟が完成しました。同じく昨年八月には、西校舎の内装リニューアルも実施され、引き続き改築二期工事が行われています。

学園創立八〇周年記念事業の一環として、進められている小学校建設工事は、今年の八月竣工に向け、現在急ピッチで工事が行われています。

昨年末には、土台部分しかない状態でしたが、今は、地下部分から一階部分まで立ち上がって来ています。日ごとに現新校舎につながる体育館棟部分の全容が、見え始めています。

現在は、半地下部分から立ち上がり、体育館とその上部に乗るプールの躯体部分の骨組みが見えます。

(写真参照)



2月の体育館棟

二期工事の当初には、旧小ホール解体後、体育館棟土台作りの段階で地中障害が見つかり、その撤去作業が加わり、工期日程の遅れが心配されましたが、現在は、ほぼ予定通りに近づいています。

また、この間、法人事務局では、設計業者や施工業者の協力を得ながら、工事内容や工事工程などの説明のために何度も近隣の方々のご足運んでいます。

実際のところ、工事中の振動や騒音などで、近隣の方々にもご迷惑をお掛けしておりますが、このように

小学校教頭 鈴木 努

近隣の方々への丁寧な対応を通して、近隣の皆様には、建設への充分なご理解を得られていると拝察しております。

昨年二月十七日には、プール解体工事に伴い学園のために長い間、園児・児童・生徒のために働いたくれたプールへの感謝の集いが行われました。プールを寄贈していただいた國井様(元理事長・S38/S41)のご家族を始め、当時の本学園教員であり、一九三二年ロサンゼルスオリンピック水泳八〇〇mリレーの金メダリストの峰島(旧姓・豊田)久吉先生のご家族や、峰島先生とともに学園プールに関わりの深い本校教員であった矢萩照男先生・近隣の方々・理事会・PTA役員会・法人事務局・中高水泳部・小学校教育代表が参加し、プールへの感謝と思いで浸る場となりました。

新校舎建築— これまでの歩み

前回、西校舎リニューアルのご紹介でも触れましたが、小学校校舎改築については、着工前の約三年前か

ら、日本の学校建築の第一人者でもある東洋大学の長澤悟教授及び学校環境研究所に加わっていただき、教職員を中心に研究・研修が進められ、初期段階では、主に教員側の視点に沿って校舎建築の検討が加えられました。さらに、教職員は、長澤教授のかかわれた日本女大豊明小学校や山梨県にある公立学校の押原小学校などの施設見学も行いました。これは、教職員が、校舎建築に向けてより具体的なイメージを持つための貴重な体験となりました。また、それらと前後して保護者の方々からご意見を頂き、その上、児童へのアンケート調査も実施しました。校舎建設に関わっては、児童・保護者・教職員など出来るだけ多くの意見を取り入れ、一つ一つ丁寧に検討を加え、意見集約を積み重ねてまいりました。

これらが、小学校建設を進めるに当たっての大きな基本ベースとなり、小学校校舎建設基本構想となりました。建設全体のコンセプトとしては、湘南のイメージに相応しい建物・採光や通風を取り入れた校舎・児童がより学びやすい教室環境・豊かな学びを広げるためのメディアセンターの設置・地域や近隣に対しての環境配慮・太陽光発電の導入・校舎全体の省エネルギー

音楽室イメージ図



図工室イメージ図



ギョー化の思考・仮設校舎を作らず
 工期の短縮やコストの削減なども
 含め、様々な角度・視点から話し合
 いが行われました。

全体として教育先進国として知
 られるフィンランド、北欧の影響を
 強く受けています。

その後の基本設計作成に当たっ
 ては、現在の設計及び施工管理をお
 願いしている（株）日本設計に入
 っていたいただき、前出の建設基本構想
 案をもとに教職員へのヒアリング
 や建設資材や学校備品などのプレ
 ゼンと検討会、児童への植栽アンケ
 ートなど、これまで以上のより多く
 の意見を取り入れ、より綿密な図面
 である基本設計に引き継がれまし
 た。

このように約3年間をかけて、教
 職員を中心に学校建設とは何かと
 いうことから出発し、研修や研究を
 積み重ね、建設についての基本構想
 案を練り上げ、さらには設計者と共
 に基本設計へ、そして、設計者によ
 る実施設計といった流れに至り、よ
 うやく二年前の着工へと辿り着き
 ました。

そして、昨年三月未曾有の震災の
 後、メディアアセンターを中心とする
 教室棟が完成しました。当時、児童
 の安否確認や保護者への引き渡し、
 旧校舎の点検復旧作業、旧校舎から

8月全面完成に向けて

新校舎への引越し、卒業式の開催な
 ど、今まで経験したことない混乱の
 中で、教職員一同、互いに励まし合
 いながら、何とかこの苦難を乗り越
 えてまいりました。教職員全員が子
 どもたちの安全と成長を願う気持
 ちを元に一致団結し、通常通り四月
 始業を迎えられたいことは、建設とは違
 う小学校にとって大きな布石にな
 ったのではないかと思っています。

今後は、体育館プール棟と専科教
 室棟の仕上げと現新校舎との接続、
 グランド等の整地と幼稚園園庭、中
 高グラウンドも含めた植栽と緑地
 化、西校舎前のビオトープと畑用地
 の設置となります。そして、八月全
 施設完成を目指し、園児・児童・生
 徒・保護者の安全を第一に工事が
 進められていきます。

着工に至るまでの約三年間、そし
 て、着工から完成までの二年半、八
 十周年という湘南学園の節目の中
 で、夢と希望と絆の小学校新校舎及
 び全施設が完成します。



全施設完成イメージ図



体育館イメージ図



自分たちでやりとげる力

生徒会活動、この一年をふりかえって

生徒会指導主任 矢後 正子



3月をむかえ、1つの学年が終わろうとしています。この1年間、生徒会の活動にかかわってきて、改めて強く感じたことは、生徒の中にある「行事は自分たちでつくっていくものだ」という強い意識と誇りです。ごく簡単になりませんが、今年度生徒会の活動を紹介したいと思います。

年度の最初に行われる生徒会行事が、新入生歓迎会です。これは、入学したばかりの中学1年生を、生徒会の会員として迎え入れる大切な行事の一つです。おろしたてピカピカの制服を着てこない新入生を、先輩たちがゲームをしながら緊張をほぐしていきまします。アリーナに会場を移して、今度は年間行事やクラブ活動を紹介しながら、生徒会の活動について説明します。どんなふうにしたら新入生が喜んでくれるのか、どうしたら生徒会の活動をわかりやすく伝えられるのか、毎年悩むところ。今年度は4月11日(月)

に行われましたが、東日本震災の影響で、3月半ばから4月初めの活動が規制されることとなり、十分な準備ができず、困難な状況でした。それでも、「成功させたい」という実行委員会に参加した生徒諸君の強い思いに支えられて、無事に終えることができました。

次に行われた行事は、体育祭です。今年度は5月17日(火)に行われました。毎年5月半ば過ぎに行われる行事ですが、いつも4月の始業式のころから高校2年生のリーダー選出から始まります。湘南学園の体育祭の最大の特徴は、中学1年生から高校2年生までの各学年1クラスずつが加わって縦割りのチームをつくることです。ここで重要になってくるのが高校2年生の役割です。「指導学年」としての力量が問われる重要な場面となります。今年、体育祭本番はもちろん、特別時間割が組まれる練習時間も含めて、「縦

のつながり」がしっかりとつくれるように練習を組むこと、を大切に取組みました。また、今年度の体育祭のテーマは、「Peace/Piece」です。ここには、一人一人の力は小さくても、そのかけらが集まって力

を合わせると大きな力を生み出していくように、自分たちも力を合わせてこの体育祭を成功させようという熱い気持ちが込められています。体育祭が終わった後、傾きかけた日差しの中で、それぞれの色が円陣を組んで、お互いの健闘をたたえあう姿は、とても印象的です。

生徒会四大行事3つ目は、学園祭です。10月初めに行われる行事ですが、4月に実行委員会の立ち上げから始まります。幹部となった生徒でテーマを考え、原案が練られ、生徒総会で原案が可決すると、今度は各クラスが企画を練り、準備にかかります。湘南学園の学園祭の特徴は、クラス参加を

大切にしていることです。実行委員会では企画相談会を開いたり、造形に必要な段ボールを一括購入するために注文を集めたり、屋台や食堂で出すメニューの試作会を開いたり、多岐にわたるりしかも膨大な仕事量です。それでも実行委員会の生徒は、クラス参加の成功が、学園祭全体の成功に大きく関わっていることをよくわかつているので、決して投げ出さず、見事にやりとげていきます。そばで見ている、頼もしい限りです。今年度の学園祭のテーマは、「アポロ61号」でした。人類が宇宙に飛び出していったように、常に新しいことに挑戦していこう、そういう願いが込められています。

4つ目の行事は、合唱コンクールです。今年度は1月26日(木)に開かれました。年度の最後のおこなわれる行事で、4月から共に過ごしてきたクラスの仲間と取り組む最後の行事となります。高校2年生にとっては、中学高校時代を通して最後の生徒会行事となり、自然と熱が入ります。それでも最初からうまくいったクラスはなく、バラバラでまとまらなかったり、時にはぶつかったりしながら練習を重ねてきます。年々、難曲や大曲に取り組むクラスが増え、

全体としてレベルが上がっています。合唱のおもしろさは、一つの個性がけんかをしながらも乗り越え、一つのハーモニーをつくりだすところです。どうやったらまとまるのか、自分たちをどう表現するのか、合唱委員やパトリリーダー、指揮者・伴奏者などクラスのリリーダーを引き受けた人がいつも悩むテーマです。そういう悩みがたくさんつまっているからこそ、本番当日、鎌倉芸術館大ホールで響く歌声は、美しく聞こえるのかもしれない。

さて、生徒会の活動はこれだけではありません。クラブ活動をはじめ、クラス委員会・各種委員会などの取り組みなど、幅広く行われています。こうした中で、湘南学園生徒会ならではの取り組みとして、いくつかあげることになります。

自分たちの力で作る生徒会ということを大切にしていますが、今年度は、そうした中で「東日本大震災チャリティイベント」に取り組みました。4月初め、クラブの代表が集まるクラブ長会議で、提案されました。東日本大震災の復旧や復興に向けて、自分たちでできることはないか、また、震災の影響で定演ができなくなっ

てしまったクラブの思いにもこたえたい、そんなところから始まりました。実施する日程の模索や、参加するクラブを集め、企画を考えて具体化することなど、まさにゼロから始めた行事でした。ダンス部や書道部、新軽音楽部、写真部、美術部、合唱部、吹奏楽部、動画研究部などの参加を得て、6月18日(土)に開催されました。当日は土曜日の午後で、たくさん人が集まるかが心配されましたが、予想をはるかに超える参加者があり、またクラスPTAなどで来校していらした保護者の方々なども足を運んでくださり、思いのほか多くの方に参加していただくことになりました。また、合わせて行った募金にも多くの方々にご協力いただき、20万円を超える寄付をいただくことになりました。その節は、ご協力いただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

2つ目は、後期クラス委員会で行い組んだ、「この指とまれ企画」です。12月にクリスマスイベント、1月にお餅つきを行いました。今年は、自分たちの力で、準備から片付けまでやり抜くことを大切に取り組みました。この企画はもともと、後期の行事が合唱コンクールだけで、何かほかにみん

なでできることはないか、ということから始まった取り組みです。12月にはクリスマスに合わせて、オーブリーッジや渡り廊下などに飾り付けやイルミネーションをつけて、より多くの人に楽しんでもらえるように工夫し、12月17日(土)には、イルミネーションポイントイベントを行いました。1月には、恒例となったお餅つきを行いました。限られた予算の中で必要な道具を準備したり、食材をそろえたり、また、お餅をついたりふるまったりする人のシフトも考えるなど、小さな行事の中にもたくさんさんのやるべきがあり、自分たちでやりきるのは、そう簡単ではありません。「大変だ」と言いながら、生き生きと活躍する姿や、「終わった」と言ってほっとしている姿を見ていると、この行事に取り組む意味がどこにあるかを改めて実感するのです。

このように湘南学園の生徒会の活動は、一部の役員や幹部が行うものではなく、むしろ生徒会の会員一人一人の協力のもとに成り立っているというのを大切にしています。どのような活動にしても、自分たちで考え、企画し、実行する。そしてそれがどうだったのかを振り返って考える。

生徒会の活動は、主体性を豊かに育てていく場として、教科教育や特別教育活動などともに、重要な教育活動だと考えています。建学の精神に「社会の進歩に貢献できる。」という目標があります。「社会の進歩に貢献できる実力」とは、このような主体的な取り組みを積み重ねて、育っていくのではないのでしょうか。

一つのことをやりとげる。多くの人々と力を合わせる。経験を重ねて自信を深めていく。自分の力をどうしたら生かしていけるのかを考える。こうした力をつけてほしいと願っています。



全世界に向けた国際交流の構築を目指して！ 北アメリカ、アジア、オセアニア、そして、ヨーロッパへ！

国際教育委員会

荒木伸浩

の2ヶ月に渡る中期留学へと飛び立つて行きました。



ノックス校への2ヵ月留学へ出発

「今、私がこうやって留学できるまでに至ったのは、本当に私を支えてくれている両親、先生方、そして、友達のお陰です。まだ早いですが、素敵な体験がありがとうございます。去年の夏のオーストラリアセミナーはたったの2週間でしたが、この2週間は本当に楽しくて、私にとってかけがえのない最高の、そして大事な思い出です。自分の英語力はまだまだですが、その時からもっとしゃべれるようになりたいと思います、英語を勉強して来ました。将来は、大好きな世界史の知識と大好きな英語を使って仕事のできるツアーコンダクターになりたいと思います。今回の留学は、将来絶対に役に立つと確信しています。英語だけでなく親元を離れて2ヶ月も暮らすので、学ぶこともいっぱいあるはずなので、学べるだけ学んで来ようと思います。本当にありがとうございます！ それでは、行って来ます！」

ノックス校との友好協定が結ばれたのが、平成20年の8月28日です。それからまだ3年数ヶ月しか経っていませんが、この間、2回に渡るオーストラリアセミナーの実施、ノックス・ジャパン・中期2ヶ月留学生ニコラス・ブルックス君の受け入れ、高3E組種子島七海さんの長期1年間留学、そして、今年の2月4日から4月2日までの2ヶ月間のノックス校中期留学への学園生の派遣といった具合に、湘南学園中高とノックス校との交流は、お陰様で順調に進んでおります。これも、これらのプログラムに御理解戴き、お子様を送り出して戴いている保護

者の皆様や、ノックス校生のホームステイを快く受け入れてくれたホストファミリーの方々、さらに、ノックス・ジャパンツアーにおいて、日本文化を伝えるカルチャー講座をボランティアで担当して戴いた皆様方の支えがあつたのことに思っております。本当に有難うございます。



ニコラス君との高2沖繩研修旅行

よるおの茶の会の方々に
ニコラス君へ
お茶をなす



「ノックス校は、湘南学園に大きな大きな幸せをもたらしてくれました！」僕は、このことを心から実感しています。オーストラリアセミナーの定員は、15名です。その枠に対して、昨年実施された第1回セミナーへの参加希望者は16名いました。そして、その数

は、翌年25名へと増え、来年度実施予定の第3回セミナーには、参加希望者が33名にも膨れあがりました。最終的な参加者を決定するにあたっては、第1次選考で英語の筆記とリスニング試験、それをパスした生徒に課せられる第2次選考では、英語面接試験が行われ、15名が選抜されました。そして、本年度は、4月から7月までの約3ヶ月間を通して、『ドラゴンイングリッシュ基本英文100』を使った英語学習に取り掛かり、毎週10個ずつ、ここに出て来る英文を完全に覚えきる事前学習に取り組みました。



セミナーのスタッフ
オナーズ
ミリアン

ノックス生達と一緒に「チーズ」



セミナーに参加した生徒達は皆、「ノックス校は最高だった！ 出来ることならば、在学中にもう1度ノックス校に行つてみたい！そして今度は、わずか2週間と言わずに、2ヶ月、いや、思い切つてまるまる1年といったような本格的な留学をしてみたい！」という強い希望を口にします。こうした生徒達の強いニーズを背景に、ノックス校との中期(約2ヶ月)と長期(1年間)の交換留学制度が出来上がり、これが実現されました。二コラス・ブルックス君の昨年8月31日から10月30日までの2ヶ月間に渡る湘南学園中期留学や、今回の金子さんら3名の学園生は、こうした制度の使ったものです。今後益々、両校の生徒の行き来を活発にし、「湘南学園に行けば、いつでも留学生達と学園生の間は笑顔が見られる」といった風景や、「今回ノックス留学して来たのは君だね。次のチームでは誰が行くんだっかな?」といった会話が普通にされるような国際色豊かな湘南学園を築いていきたいと思っています。

湘南学園の国際教育は、平成17年度の第1回カナダセミナーの実施がその始まりです。このセミナーには、経済不況にも関わらず、53名もの生徒に参加して戴きました。こうしたことから、湘南学園の保護者の皆様の海外への関心はとて高く、その後、このセミナーは、7年連続して多くの生徒の申し込みを戴きながら

続して実施することが出来ました。もちろん、次年度もまた、カナダエアドリーの素敵な田舎町で、フレンドリーな地元の方々に囲まれながらこのセミナーを実施致します。



セミナーファーストミリアダフォとナフィーカでのミ



本年度で4回目を迎える韓国セミナーでは、今回は、初めて2ヶタを超える12名の申し込みを戴くことが出来ました。韓流ブームとはいえ、子ども達の目が、確実に世界へ向けられていることの現れだと考えています。

昨年度のこのセミナーは、東日本大震災の直後での実施でした。不安を抱えながらの渡航となりましたが、そんな心配は、韓国金浦国際空港で飛行機を降りたとたんにかつ飛んでしましました。空港のグラウンドアテンドの方々は、肩から「がんばれ！日本！」のたすきをかけて業務にあたられていました。そして、空港のあちこちに「がんばれ！日本！」の横断幕が貼られていたのです。

また、訪問させて戴いた慶福ビジネス高校の校舎の入口には、大きな立て看板に東日本大震災の被災地の大きな写真が3〜4枚掲示され、その前には募金箱が用意され、学校をあげての募金活動に取り組んでくれています。

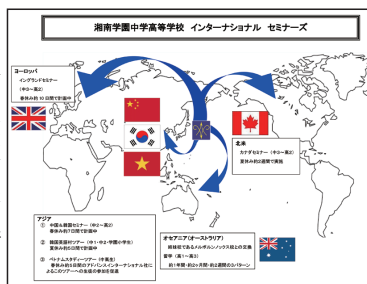


さて、このように、英語圏への2つのセミナーとアジアへの1つのセミナー、そして、オーストラリアとの相互交換留学を進めて参りましたが、次年度から、これらに加えて、新たなイベントを立ち上げたいと考えています。

まずは、英語圏での英語学習の二環として「イングランドセミナー」を春休みに実施する予定です。オーストラリアセミナーと同様に、現地校(エクセター)との交流を含めたセミナーで、ホームステイは1名ずつで考えています。さらに、国民総生産が日本を抜いて世界第2位に押し上がり、グローバルビジネスにおいて現在再注目株の中国への渡航を含めた「中国・韓国セミナー」を春に実施します。このセミナーでは藤沢市の姉妹都市である雲南

省昆明(中国国歌の作曲者であるニエアル氏の故郷で、鶴沼海岸に彼の記念碑がある)の雲南師範大学日本語学科や付属校の生徒さん達との交流を模索します。

また、学園小学校の児童と学園中学1・2年生を対象とした「韓国英語村ツアー」を夏に実施したいと思っております。英語教育が大変盛んな韓国で、このツアーへの参加が子ども達の学習への刺激となればと期待しています。



北アフリカ・アジア・オセアニア、そしてヨーロッパへ

最後に、僕達の学校づくりの取り組みは、二体何を目指して行われるのだろうか?と立ち止まって考えてみました。その答えは、IPTA会長のメッセージの中にありました。

「大切なのは、子どもに自分の能力を使う機会を与えること。大人はその貴重な機会を奪わないこと。子どもにも積極的に注意を向け耳を傾けていきたい。」

今後とも、この言葉を胸に刻んで、学園の国際教育の推進に取り組んで行きたいと思っております。

子どもと共に「育つ」

湘南学園小学校子育て

講座の一年

小学校校長 斉木 修

教育、子育ての醍醐味は、教師も親も、子どもと共に「育つ」成長する」ことにあると思います。子どもたちを挟んで親と教師が作る学校なので、なおさらそう

いう機会が大切だと思います。小学校で昨年から始まった子育て支援講座は今年度六回開催されました。今年度行われた講座をご紹介します。

第一回 五月開催

テーマ「大好き国語」

講師 岩辺泰吏氏

(明治学院大学教授)

ベストセラーになった「大好き国語」など国語教育、読書アニメーションの先駆者として知られる岩辺先生に、国語ゲームなどを交えながら、「国語好き、読書好き」の子どもを育てる秘訣などを楽しく学びました。

第二回 七月開催

テーマ「北欧の文化・風土・教育」

講師 佐藤 隆氏

(都留文科大教授)

教育先進国として世界中で注目されている北欧の教育について、特にフィンランドを中心に話していたいただきました。

美しい写真も使って、誰しも一度北欧諸国を訪ねてみたい気持ちになりました。

小学校は新校舎にもフィンランドの影響を強く受けていることもあり、親しみの持てるお話でした。

第三回 九月開催

テーマ「メディアと子ども」

講師 小笠原喜康氏

(日本大学文理学部教授)

携帯、スマートフォン、PC、フェイスブック・・・子どもたちも様々なメディア環境に取り囲まれています。またそれらは凄スピードで変化していきます。メディアリテラシーの大切さは、様々な媒体でも指摘されていますが、子ども達を守り、正しく使いこなす知識、知恵について、私たちも関心を強く持ち、学んでいくこと

が大切です。小笠原先生に情報への向き合い方をわかりやすく語っていただきました。

第四回 十一月開催

テーマ「TVドラマに見る

戦後の家族像」

講師 清水有生氏

(脚本家 本学園保護者)

「金八先生」「あぐり」などの作品で知られる清水氏に、「東京物語」「岸辺のアルバム」から「金八先生」まで戦後の映画、TVドラマの足跡をたどりながら、家族と、社会の変遷について語っていただきました。

「核家族化から家族の解体」そして今「家族の再生」へとテーマが移ってきたことを、ドラマの作り手の視点から興味ぶかく語っていただきました。

第五回 一月開催

テーマ「『子育て』に『育てにくさ』を感じていませんか」

講師 山下直樹氏

(本校カウンセラー)

大人も子どもも程度の差はあれ、様々な発達凸凹(でこぼこ)

を抱えているのが普通です。その凸凹が大きくなると「発達障がい」と診断される場合もあります。大切なことは、自分に、我が子にどんな凸凹の傾向があるのかを知っておくことです。凸凹があることは必ずしも弱点ではなく、そのことが学習でも、生きるうえでも+になることも少なくないからです。そのことを体験も含めてわかりやすく話していただきました。

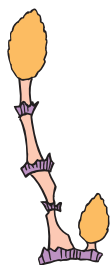
第六回 三月開催

テーマ 出前カフェ「余白や」

講師 米澤伸弥氏

(本校保護者 余白や店主)

大手出版社の編集者として活躍されてきた米澤氏が、かつて鶴沼にあった幻のカフェを本校に再現します。本校保護者同士のフラットな交流の場として、余白や特製ブレンドを楽しみながら、店主のナビゲートで楽しい時間を皆様と過ごしたいと思います。この企画は湘南学園でらこやとの共同企画になります。



本物の雪国体験 『雪の学校』



五年 光輝組

〈はじめに〉

今回の『雪の学校』は、『人と人、人と自然との関わりを大切に』『雪国のくらしを体験し、自分とつながりを見つめる』という二つのねらいを持って行いました。大自然の前では、人間は太刀打ちすることができません。しかし、大雪の中でも人々は、工夫をしながら力強く生きています。そんな人々との出会いに感謝し、温かな人のぬくもりを感じました。大自然の厳しさ、人々の温かさを感じ、自分を振り返るきっかけとなりました。そして、これからどう生きて行くのかをしっかりと考える機会になりました。このような『本物体験』こそが湘南学園小学校が目指している『総合学習』だと考えています。

〈民泊体験〉

新潟県十日町市は日本の中でも有数の豪雪地帯です。その風土の中で人々は力強く生き、たくさんのが生まれています。民泊体験とは、そんな農業を営んでいる一般のご家庭に泊し、ありのままの自然や雪国の暮らしを実際に体験するプログラムで

す。最初は緊張していた子ども達も最後の別れ際には「本当に話をきかない子たちだったけれど、良い子ばかりで楽しかったよ。」と言われるほど信頼関係が芽生えていました。その言葉の中に、昨日からの様子が目に浮かび、そう話しているお世話になつたお母さんはとても楽しそうに見えました。バスに乗つてからもずっと手を振っていました。そのバスに向かって、お父さんお母さんも手を振り続けて下さいました。たった半日にも関わらず、心を通わせた子ども達。それを見守つて下さる方々の優しい表情。全く見ず知らずの人の家に行き、衣食住を共にする。そんな出会いが、そして別れが、人を「人」として大きくしていくのではないかと感じました。



〈スノーシュー体験〉

スノーシューを履いて雪山をトレッキングします。雪があることで、普段行けないところまで歩き回り、大自

然の雄大さを感じながら多くの発見をしていきます。当日は、雪の降りしきる中、深々とした雪に作られた二本道に入つていきました。木の半分から上だけが雪の上に出ている状態です。真っ白な中に二本道。やはりやってみよう！とは、道のない雪の中を進みたいことでした。新しいところを歩こうとすると、体の半分が雪の中に沈みます。雪を押し分け、足を進めます。一歩進むのがこれだけ大変なのかと思えました。さすがは子ども達です。「雪め！そうくるなら受けて立つてやろう！」と言わんがごとく、「一歩二歩、転びながら雪に埋もれながら。途中で転んでも起き上がり、雪にまみれても、振り払い、あきらめず進んでいます。歩む歩幅は小さいですが一歩ずつゆつくりゆつくりと進んでいる子ども達を見て、これこそが「生きる力」だと思いました。子ども達を見守る大自然。大地も雪も空も木たちも。そのすべてが、温かく子ども達を包み、多くのことを学ばせてくれます。五感をフル活用させて感じる世界でした。



〈おわりに〉

今回の『雪の学校』では、「豊かな体験活動」や「具体的な活動」を通して五感で学びとり、心で感じ取ることを目指しました。「人と出会い、本物を知る」ことでこれからの人生を力強く生き抜いていく大きな力として育まれることを願っています。



湘南学園幼稚園の子どもたち

幼稚園 園長 榎本 トミ

桜のつぼみも少しずつ膨らみ始めた三月、子どもたちは四月の進学、進級に胸を膨らませています。

先日、幼稚園に、三歳の男の子を連れ来た見学者が来た時の事です。少し緊張気味の男の子はしっかりとお母さんの手を握っていました。そこにたまたま通りかかった年長組の女の子が見学に来た男の子に気付く、声をかけてきました。

「こんにちは！幼稚園見に来たの？お母さんが見ている間、一緒にあそびましょー」と。男の子はお母さんの顔をじっと見てお母さんが「どうぞ！よかったわね」というと女の子の差し出した手を握って出かけていきました。

この日はかりが特別に声をかけてあげているわけではありません。子どもたちの予測のつかない時に見学に来た時でもこうして誘ってあげたり、部屋に見学に行った時に遊びに誘ってくれるのです。とても自然に仲間に入れてくれるのです。見学の子が嫌がる時は、「遊びたくなったら来てね」と、ちゃんと待つてあげています。

どのクラスに行っても「こんにちは！」の挨拶と優しい言葉をかけて貰えるので見学者は驚きます。

年長組の子どもたちは三歳で入園した時、保育者に、ありのままの自分を受け止めてもらえる安心感と、気持ちを大切に扱って貰った身近な存在として、保育者の模倣をしながら過していきます。

子どもたちはワクワクしながら遊ぶ中で本

来、子どもが持っているもつと楽しく遊ぶにはどうしたらいいかを考えながらあそびを展開していきます。満足するまでそのあそびを続けられるよう(明日にもつづけられるよう)にして、やり遂げた思い(気持ち)を育てます。

遊びを通して友だちとのコミュニケーションも学んでいきます。喧嘩も起きます。相手がなぜ玩具を貸してくれないのか？なぜぶつたのか？…気持ちを聞きながら言葉で伝えることが大切で、相手に「気持ち」があること、どんな気持ちでやったら相手はどんな気持ちになったかを大事に伝えていきます。

今まで年少組の子どもたちは玄関までお母さんと一緒に登園していました。最近では、プール横から一人で登園して来る子どもたちも増えていきます。「一人で幼稚園行けるようになったの？すごいね！」と言うと「だって、もうすぐすみれ組さん(年中組)になるんだもん！」と誇りにこりします。大きくなることへの喜びが見えてくる瞬間です。今、年少組の子どもたちは、年中組へ遊びに行きながら、部屋の使い方を覚えたり、一緒に遊びながら年中組のすることに憧れをもつて生活しています。

年中組の子どもたちは年長組がやってきたうさぎやチャボのお世話を年長組に教わりながら、得意げにやっています。生き物と共に生活してお世話すること、うさぎやチャボが元気に生きていけるのだと、後あと気が付く時まで年長組がやっていたように、やれることへの喜びをもつて活き活きとお世話話していきます。年長組のやることに憧れを持つている年中組は、先日行われた年長組の「こどもかい」(和太鼓劇)を瞬きもせず、

息をのむような姿で観ていました。翌日には、もちろん年長組の部屋に行き和太鼓を叩かせて貰ったりしたのは言うまでもありません。年長組の模倣をしながらそれを味わって噛みしめていました。自分達もコンサートをしてみたいと言つてすみれコンサートを開くことになりました。憧れを、どうやって自分の生活に実現させていくのかを考えながら、思いを年長に向けています。

年長組の子どもたちは「子ども会」を終えて和太鼓が六十人でできたこと、難しい事がよく覚えられたことを褒めると、難しくないよ、もうすぐ小学校に行けるんだから力がついているんだよ」とにこり胸を張つて応えてくれました。自信のある言葉でした。今、自分たちのやってきたことを、遊びにきた年中、年少組の子どもたちに丁寧伝えていきます。たくさん叩いて楽しむこと、から…！たくさん叩いて太鼓を好きになることだとつていました。

年長組の子どもたちもこのように、今年一年生の子どもたちに年長組の時、教えてもらったように教えてあげています。

湘南学園幼稚園の子どもたちは十分にあそんだことで培った、探求していく楽しさと友だちと力を合わせることの面白さ、驚きなどを沢山体験し、小さい子への思いやりと大きい子どもたちへの憧れ、大人への信頼感を持つて生活しています。

「みんなちがって みんないい…」金子みすゞの詩のように、私達大人(保育者)は二人ひとりの子どもたちに寄り添い、一人ひとりの子どもの小さな成長と変化を見逃すことなく喜んであげる事が大切であると考えています。

このような幼稚園の考えは、湘南学園の

小学校、中高も同じであること、交流があること、学園の建学の精神で支えられていること等を見学に来たお母様にお話しをしました。

見学を終えたお母さんは、男の子が楽しんでるのを見て「優しい子どもたちですね。嬉しいです。ありがとございました。うちの子どもも、あのように優しい子どもになつてもらいたいです。」と言って願書を求めて行かれました。

湘南学園のスタートは幼稚園です。湘南学園の子どもたちは三歳から十八歳までの十五年間を過します。幼児期から高校時代にかかる大切な「時」を、(学園の中で子どもたちの成長を一番長く見る事ができるのは、幼稚園の教職員であるのだと思うと、身が引き締まる思いです。

教職員一同、入園して来る子どもたちが皆、自分の遊びを見つめる事ができ、楽しくスタートできるように寄り添つていこうと話し合っています。



生き物と共に

幼稚園 年中組担任

進藤加央里

幼稚園には、毎日元気に「七〇名の子ども達がついてきます。保育室に、園庭に…子ども達の楽しそうな声が響き渡っています。

しかし、幼稚園の仲間はずどもたちだけではありません。うさぎやちやほ、カメなどの生き物もいます。朝、登園したときに、「うさぎさんおはよう！」と声を掛けたり、「今日もちやほさん元気かな？」と気に掛けたりする子もいるほど、子どもたちにとつてうさぎもちやほも幼稚園の仲間の一員とまっています。

生き物を飼うということは簡単なことではありません。毎日、排泄物の掃除をしてあげなければならぬし、エサや水やりもかかせません。幼稚園では、そのようなお世話全般も、子どもと一緒にしています。

生き物のお世話は幼稚園の最年長、そして幼稚園のリーダーでもある年長児(五歳



「うさぎさん、フワフワでかわいいな〜。」



「うさぎさん、トレイきれいにしておあげるね。」

児)が担っています。やりたい子を中心にうさぎやちやほ当番を募り、小屋の新聞紙を取り換えたり、トレイ(排泄物の受け皿)をブラシで擦つてきれいにしたり、水を換えてあげたり、エサをやったりします。

毎日のお世話を通して、最初は排泄物の掃除を「汚くて嫌だなあ…」と感じていた子どもたちも、だんだんと「今日もコロコロウンチだから元気だね！」と観察するようになり、状態によっては「あれ?今日はあんまり調子がよくないのかな?」「心配だねえ…」と健康状態を気にかけてあげられるようになったりしてきます。また、お世話をしたり、生き物と一緒に遊んだりすることで、だんだんとその生き物の特徴や個性を掴んで対応できるようになってきます。まるでうさぎやちやほのお父さん、お母さんのようです。

そして、三学期のこの時期は、年長児から年中児へと、うさぎやちやほ当番が引き継がれていきます。

「もうすぐさくらさん(年長組)になるんだぞ!とはりきつている年中児に、そつと寄り添いながら教えてあげる年長組の子どもたち。

「新聞紙は三枚敷いてあげてね。」「エサを食べ過ぎるとお腹を壊しちゃうから、カップに一杯だけあげるんだよ。」と、緒にお世話をしながら、わかりやすく伝えてあげます。

また、年中児が、大きなトレイを運ぶのに四苦八苦していると、その姿に気付き「(トレイのこと)ここと持つと運びやすいよ。」と、サツと手を差し延べてくれる姿もあり、とても頼もしい年長組の子どもたちです。

うさぎ・ちやほ当番を引き継いでいきながら、年長児は自分たちが小学生に近づいていくことを実感したり、小学校へ向けて自信をつけていたりします。また、年中児は、「さくらさん(年長児)つかっこいいな。」「さくらさんに優しく教えてもらつてうれしな。」



「はい、エサどうぞ!」

という気持ちとともに、年長児への憧れや、年長組に進級する期待、喜びを膨らませていたりします。

お世話が終わった後は、子どもたちの大好きな触れ合いタイムです。お世話をしあげたうさぎやちやほをゆつくりと抱っこしたり、撫でてあげたり、心行くまでキャベツやにんじんをあげたり…と思う存分、生き物との触れ合いを楽しみます。

このように、幼稚園では生き物と共に生活することが根付いています。今後も生き物との触れ合いを通して、命の大切さを実感したり、生き物を慈しむ気持ちや大切にすることを育んでいってほしいと願っています。



「ちやほさんってあったかくて気持ちいいね!」



学校法人から

【理事会報告】

センターエリア3階中会議室

- 第2回臨時理事会 10月5日
- 第7回定例理事会 10月22日
- 第8回定例理事会 11月12日
- 第9回定例理事会 12月10日
- 第10回定例理事会 1月28日
- 第3回臨時理事会 2月10日
- 第11回定例理事会 2月25日

【主な議題】

- ・創立80周年記念事業について
- ・平成24年度重要事業について
- ・平成24年度重要事業・一般事業予算について
- ・サーバー室次期システム展開構想について

- ・学園広告看板の合理化について
- ・中高長期修繕計画について
- ・ザ・ヤングアメリカンズ企画について
- ・ネット関連リスク対策について
- ・藤沢市との津波対策緊急一時避難場所に関わる協定の締結について
- ・平成24年度事業計画について
- ・平成23年度補正予算について

【評議員会報告】

センターエリア3階大会議室

第2回評議員会

11月5日

【主な議題】

- ・次期学園長の選任について
- ・小学校建設工事資金の最終借入について
- ・学園創立80周年記念事業について

学園プール感謝の集い開催

法人事務局長 北村 武

小学校改築工事に伴い、昭和34(1959)年に浄水装置や滅菌装置を備えた最先端のプールとして建設されて以来52年の間、生徒・児童の水泳能力向上に貢献してきた学園プールが1月から解体されることになりましたので(現在では解体作業はほぼ終了しました)、これを記念し12月17日(土)12時30分から「学園プール感謝の集い」を開催いたしました。

本集いの主旨は、プールに縁の深い方々に感謝の意を表すこととし、ご招待した方々は次の通りで、学園プールを個人で寄贈してくださった國井博隆様(昭和38(1963)年から昭和42(1967)年まで本学園理事長、故人)の令夫人及びご令嬢、昭和7(1932)年に開催されたロサンゼルスオリンピック競泳(4×200m自由形リレー)の金メダリストで当時小学校教諭をしておられた峰島久吉先生(故人)のご令嬢お一人とご令息、峰島先生を補佐された元小学校教諭矢萩照男先生、水泳に縁の深かった校医の熱田真一先生、プールに隣接し

て住んでおられる清水憲子様、峰島教諭と親交のあった鶴沼郷土資料室長の内藤喜嗣様(本学卒業生)、そして工事業者の清水建設から2名の合計11名であります。

学園からは理事長、学園長、各学校(園)長、事務局長、PTA会長、同窓会長、後援会副会長、中高水泳部員、部員保護者、そして小学校学年会代表児童等多数に参加し、先ず全員で記念式典をプールサイドにおいて行いました。高尾理事長が國井様及び水泳活動を暖かく見守っていただいた近隣の皆様に対しての謝辞とプールが学園に寄与してきたことの大さに触れ、続いて水泳部員代表生徒が國井様に対する感謝の言葉を述べ、令夫人に花束を贈呈いたしました。式典は短時間で簡素なものではありませんでしたが、心のこもった感動的なものであります。



式典後、会場を本部棟大会議室に移し、学園の主要メンバーと招待者で会食を行いました。学園長の挨拶に続いて会食懇談に移り、ご招待者の当時の思い出話とこれに感謝の気持ちで聞き入る学園関係者の会話で和やかな時間が過ぎました。会食の終わりに、ご招待者全員に記念品として、学園名等を刺繍した特製のスポーツタオルと学園プールを特集した当時の「学園通信」のコピー本が学園長から贈呈されました。これをもって本行事は終了し、いつの日か再会を願いつつお別れしました。

なお、後日國井様令夫人から、先日の行事は大変感動と感激をいたしましたという主旨の御礼の電話をいただき、逆に恐縮した次第であります。

卒業式・入学式等の日程

【3月】

- 10日 高 卒業式
- 15日 幼 卒業式
- 16日 幼 修了式
- 17日 小 修卒業式
- 23日 中高 修卒業式

【4月】

- 7日 中高 始業式
- 9日 小 始業式
- 10日 中 入学式
- 11日 幼 始業式
- 11日 小 入学式
- 12日 幼 入園式

